

お知らせ

INFORMATION

No.2019-02
2019年2月
病体生理研究所

新規検査項目受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

◆25-OH ビタミン D (骨粗鬆症) [16820] …検査実施施設 (M)

〔ご提出時の注意〕

※本検査は、検査案内 P14 記載の「25-OH ビタミン D」とは、検査方法が異なる検査です。

※ご提出の際には、必ず“(骨粗鬆症)”まで記入して下さい。ご記入が無い場合、検査案内記載の「25-OH ビタミン D」にて受付させていただきます。

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2019年2月18日（月）受付分より

25-OH ビタミン D (骨粗鬆症)

ビタミン D は食事摂取あるいは皮膚への紫外線照射により体内に供給される脂溶性ビタミンです。その大部分が肝臓において 25 位が水酸化されて 25-ヒドロキシビタミン D (25-OHD) に変換され、ビタミン D 結合蛋白と結合して安定的に血中を循環します。また血中半減期が約 3 週間と比較的長いことから、25-OHD の血中濃度測定は生体のビタミン D の充足状態を把握する指標とされています。

ビタミン D は生体内でその代謝と作用が厳密に調節され、骨・カルシウム代謝調節に密接に関与しています。また、血中 25-OHD 濃度は副甲状腺ホルモン (PTH) 濃度と逆相関するため、25-OHD の低下は PTH の上昇を引き起こし、骨吸収亢進/骨密度の低下および骨粗鬆症を発症させることにより、骨折のリスクを上昇させる要因となります。さらに、間接的にも筋力低下による転倒リスクを高め、骨折の発生リスクを増加させることが指摘されています。

多くの臨床研究により、未治療の骨粗鬆症患者において血中 25-OHD 濃度が低いほど骨折発生率が上昇し、25-OHD 低値群では転倒経路割合や転倒回数が有意に多いことが報告されていますが、血中 25-OHD 濃度を 1ng/mL 上昇させると転倒リスクをおよそ 3% 低下させることが可能と推計されています。

さらに、ビスホスホネート療法による骨密度改善効果が骨粗鬆症患者のビタミン D 充足度により有意差があることも報告されています。

25-OHD の血中濃度測定は骨粗鬆症患者における骨折・転倒・骨密度低下リスクの評価や薬剤治療方針の決定、その効果予測に有用とされます。

【新規項目情報】

項目名称	25-OH ビタミン D (骨粗鬆症)
コード	16820
検体材料	血清 0.3mL
保 存	冷蔵
採取容器	No.1 → No.5
検査方法	ECLIA
基準値・単位	ビタミン D 欠乏 : 20.0 未満 ng/mL ビタミン D 不足 : 20.0~29.9 ng/mL
所要日数	3~6 日
実施料 (区分)	117 点 (D007 30)
判断料	144 点 (生化学的検査 (I) 判断料)
備 考	*算定留意事項 ア) 本検査は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA 法により測定した場合にのみ算定できます。ただし、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に 1 回に限り算定できます。 イ) 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守して下さい。

参考文献 : Tamaki J, et al : Osteoporosis Int 28 (6) : 1903-1913, 2017.
岡崎 亮 他 : 日本内分泌学会雑誌 93 (Suppl. March) : 1-10, 2017.

以上